

e-DPP / ETAP-DPP を使いこなそう！

“サイトエリア” の活用方法 (トピック #009)

e-DPP で誘導モータの Data Filling (自動データ投入) を行う時、全て一律のデータが投入されると不都合な場合があります。特にモータの構造に関するデータ項目やケーブルの敷設方式は、モータの設置場所区分によって変わることが多いと思います。例えば、水素雰囲気のエリアでは内圧防爆型のモータを使用するか、プロセスエリアのケーブルは地中敷設するとか云った類です。ほとんどの場合、これらの条件は顧客仕様書の中で指定されています。

e-DPP ではこのような「ケース分け」による Data Filling 機能を用意しています。更に、Data Filling でモータライブラリーの特性データを自動投入する場合も、モータ外被構造が参照キーの1つになりますので、「ケース分け」によって Data Filling 実行後のデータ精度を飛躍的に高めることができます。

この機能を活用するためには次の3つの操作を行います。

- ① 「デフォルト」メニューで「サイト (現場) エリア」情報を登録する。
- ② モータスケジュール中の各モータに「サイトエリア」(フィールド名 SiteArea) データを入力する。
- ③ 誘導モータの Data Filling (自動データ投入) を実行する。

下図は①の「サイトエリア」情報を登録した画面です。

現場エリア ID	危険場所階級	爆発保護	防爆階級	爆発温度	外被構造	保護等級	絶縁階級	温度上昇	防蝕	騒音 (dBA)	ケーブル敷
1 OFFSITE	Zone 2	Type N	II	T3 (200)	TENV	IP55	F (155deg.C)	B (80deg.C)	By Paint	85 .	U/G Bur
2 ONSITE	Zone 2	Exd	II B	T3 (200)	TEFC	IP55	F (155deg.C)	B (80deg.C)	By Paint	85 .	U/G Bur
3 PIER	Zone 1	Exp	II C	T3 (200)	TEFC	IP66	B (130deg.C)	B (80deg.C)	By Paint	85 .	A/G Cor
4 UTILITY	Non Class	Type N	II	T3 (200)	TENV	IP44	H (180deg.C)	H (125deg.C)	By Paint	80 .	A/G Tra

②の「サイトエリア」データの输入は、モータスケジュールの編集画面でも可能ですが、外部データインポート機能を利用すると便利です。

DegreeProtection	Text	20								
Rotation	Text	5								
InsulationClass	Text	10								
ProcessUnitID	Text	20								
SiteArea	Text	20	Col 18							
CableLength	Double									
UserText_0	Text	50								
UserText_1	Text	50								
UserNum_0	Double									

以上の操作が完了したら、③の Data Filling を実行してください。モータの設置場所区分に従って、異なるデータが投入されます。この時、モータスケジュールに「サイトエリア」データが入力されていないモータについては、「デフォルト」メニューの「サイト (現場) エリア」情報は無視されます。また、モータの外被構造が入力されていない場合は、デフォルトで「TEFC」がライブラリーの参照キーになります。

次回は、「レビジョン管理の使い方」です。

問題点・ご要望等をお持ちの方は、お気軽に下記へご連絡ください。

(有) エルテクス設計 亀田

メールアドレス etap@eltechs.co.jp